

時間割コード	Q4300902	開講年度	2026				
授業題目	特別活動の理論と実践【第4欄】					担当教員	田村 徳至
英文授業名	The theory of the special activities and practice						
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	S
講義室	工C3-101教室			授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	学習指導要領から見た特別活動の意義と内容を読み解き、理解する。 具体的な実践例を基に、特別活動の4つの内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、学校行事）の特徴と意義を考察する。 特別活動場面で実施可能なワークショップを体験し、生徒理解の視点から効果的な学級・学年経営のあり方を探究する。						
(5)授業のキーワード	特別活動、学級活動、ホームルーム活動、学校行事、生徒（児童）会活動、クラブ活動						
(6)授業計画	1 教育における特別活動の意味を考える。 2 学習指導要領からみた特別活動の意義と内容について理解する。 3 学級活動・ホームルーム活動における特徴と意義について理解する。 4 生徒会活動における特徴と意義について理解する。 5.6 学校行事における特徴と意義について理解する。 7 学校と家庭や地域社会との連携について考察する。 8 教科や道徳、総合的な学習との関連や潜在的なカリキュラムからの見直しについて考察する。（授業の最後にアンケートを実施する 15分間）						
(7)成績評価の方法	毎回課すリアクションペーパー（ミニレポート）（65%）、期末の課題レポート（30%）、授業への取り組み（5%）を総合的に判断する。 【注意事項】 ・初回の講義時に詳細を説明する。						
(8)成績評価の基準	規準…概ね目標に達成されていると判断されるレベル ①…学習指導要領の内容を理解している。 ②…カリキュラムにおける特別活動の位置づけを理解している。 ③…学校行事の指導計画を立案することができる。 基準 『かなり上にある』…規準値の3点を満たし、深い学びを導き出すカリキュラムを編成することができる。 『やや上にある』…規準値の3点を満たし、学校行事・生徒会活動・学級指導の指導について有機的に連動させながら計画を立案することができる。						
(9)事前事後学習の内容	インターネット上で公開されている学級活動の実践記録を調べたり、学校行事の指導計画などを調べ、指導計画を立てる際に活用できるようにしておくことよい。 総合的な学習と特別活動について、文部科学省のホームページで実践報告を調べ、レポートに織り込むことができるようにしておくことよい。 ※この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となる。						
(10)履修上の注意	＊教員免許状取得希望者は、必修科目である。 ＊前期の教育方法論を履修登録をする時に、この科目の履修登録も行うこと。教育方法論が終了した翌週からこの科目の授業を行う。						
(11)質問、相談への対応	講義後等随時対応します。 メールでも可。 tamura@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	すべての回に出席することを前提としている。 各回、リアクションペーパー（ミニレポート400字程度の記述）の提出をもって出席とする。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	eAlpsに掲載された資料を基に、自学自習しレポートにまとめて提出する。						
【教科書】	文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 総則編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 ・高等学校教員を志望するものは高等学校編も購入しておくことよい。						
【参考書】	必要に応じて授業内で紹介する。						